

## 中山間地域における夏秋ギクの電照およびエテホンの品種間反応

多田健二・坂元政寛・富山一男<sup>1)</sup>・梅木佳良(宮崎県総合農業試験場畑作園芸支場・<sup>2)</sup>中部農業改良普及センター)

Kenji TADA, Masahiro SAKAMOTO, Kazuo TOMIYAMA and Yoshinaga UMEKI:

Flowering reaction of the cultivars to lighting and ethephon of summer to autumn flowering chrysanthemum in mountainous area

宮崎県の中山間地域における夏秋ギク栽培においては、開花期の異なる多品種が栽培されている。そこで、地域慣行の栽培体系に基づき、電照抑制栽培やエテホン散布による開花特性を調査し、地域での新たな栽培体系の可能性を検討した。

## 1. 材料および方法

試験は、標高約370mの無加温施設内において実施した。定植苗は、地域生産者や育苗センターより供試したため、定植までの管理や定植期については品種により異なった。施肥は全量基肥として、N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>Oで1.8-2.9-1.6kg/a施用した。栽植様式は畦幅130cm、株間10cmで、1996年が条間15cm<sup>4</sup>条2本仕立て、1997年が条間45cm<sup>2</sup>条3本仕立てとした。

試験1: '精雲'を標準に11品種を供試した。電照は、定植期から6月24日まで深夜4時間暗期中断とした。定植期は、1996年が4月23日～5月8日、1997年が4月3日～4月25日とした。

試験2: 7品種を供試した。エテホン処理は、摘心時、摘心10日後、摘心20日後に200ppm液を3～5cc/株散布した。同品種の定植期は試験1と同様で、1997年については約10日後の定植期(定植期から6月24日まで試験1と同様の電照栽培)を設けた。

## 2. 結果および考察

無処理に対し、電照により6～31日開花が抑制され、5～29cm切花長が増加した。エテホン散布により平均開花日の遅れや切花長が増加する傾向がみられ、散布回数の増加によりその程度は大きくなった。

また、エテホン散布単独と比較して、電照を組み合わせることにより開花日の遅れの程度は異なり、無散布と比較した開花抑制程度はエテホン散布単独の方が大きい傾向になった。1997年試験より開花日は、無電照が最も早く、電照+エテホン3回散布が最も遅くなり、その期間は18～48日となった。

試験1では4品種、試験2では1品種を2か年用いたが、電照およびエテホン散布による無処理と比較した開花期の年次間差は小さいと思われた。

以上のことより、品種間差が大きくみられるが、当地域における7～8月開花の作型において、電照による開花抑制効果が低く消灯後の伸長量が少ない品種についてはエテホン散布による開花期の遅れや切花長の増加による開花期の拡大をはかる。また、電照効果の高い品種については、エテホン散布と組み合わせることにより、計画的な栽培体系が可能と思われた。

第1表 電照が平均開花日、切花長に及ぼす影響

品種	平均開花日		切花長 (cm)		伸長量 (cm) <sup>a)</sup>		年度 <sup>b)</sup>
	無電照	電照	無電照	電照	無電照	電照	
東海金山	8/3	8/22	75	87	22	36	96
	7/22	8/20	79	103	14	39	97
松本の丘	7/24	8/7	68	86	7	18	96
松本黄金	7/25	8/12	71	85	13	21	96
新流星	7/6	7/18	51	63	5	7	97
サマーイエロー	7/24	8/12	60	79	16	41	96
	7/26	8/15	53	76	15	37	97
スーパーイエロー	7/13	8/13	61	87	10	36	97
新春日	7/22	8/5	73	91	12	26	96
高原の紅	7/4	7/11	80	90	4	7	97
笑園	7/28	8/15	75	89	14	14	96
白樺	7/27	8/18	73	90	25	40	96
岩の白扇	8/1	8/10	57	74	29	35	96
	7/8	8/6	57	86	7	36	97
精雲	8/5	8/11	76	81	32	39	96
	7/31	8/10	73	84	32	41	97

注) <sup>a)</sup>: 消灯時から開花時までの切花長の伸長量 <sup>b)</sup>: 試験年度

第2表 エテホン処理が平均開花日に及ぼす影響

品種	無処理	エスレル散布回数 <sup>a)</sup>			電照 <sup>b)</sup>	年度 <sup>c)</sup>
		1回	2回	3回		
東海金山	8/3	+12	+34	+38		96
	7/22	+12	+30	+35		97
新流星	8/21	+5	+11	+12	○	97
	7/6	+4	+30	+39		97
サマーイエロー	7/26	+17	+21	+25	○	97
	7/26	-2	+15	+37		97
スーパーイエロー	8/5	+14	+14	+21	○	97
	7/13	+8	+23	+37		97
百万石	8/22	+5	+6	+9	○	97
	8/15	+5	+9	+12		96
高原の紅	7/4	+8	+11	+32		97
	8/6	+11	+12	+15	○	97
岩の白扇	7/8	+7	+10	+25		97
	8/9	-1	-1	+4	○	97
精雲	7/31	+5	+7	+15		97
	8/12	±0	+3	+6	○	97

注) <sup>a)</sup>: 無処理を基準にした平均開花日の差異<sup>b)</sup>: ○は電照を組み合わせた<sup>c)</sup>: 試験年度